

2006年11月10日

飽海町・東田町西脇二区防災訓練説明会

●防災訓練の実施日時

11月12日（日）9時～11時（予定）

※当日は校区防災訓練も実施（9時から）

※雨天の場合、7時30分頃までに中止・実施の判断

※訓練開始の合図は、総代・学生スタッフがハンドマイクでアナウンス

グループ1・4：学生スタッフ2名、グループ2・3：三井総代、グループ5・6：向坂総代

●防災訓練のグループ構成

☆飽海町

1（5組、6組）、2（3組、7組、8組、9組、保育園）、3（1組、2組、10組、11組、12組）

☆東田町西脇二区

4（5組、6組、10組）、5（3組、4組、7組）、6（1組、2組、8組、9組）

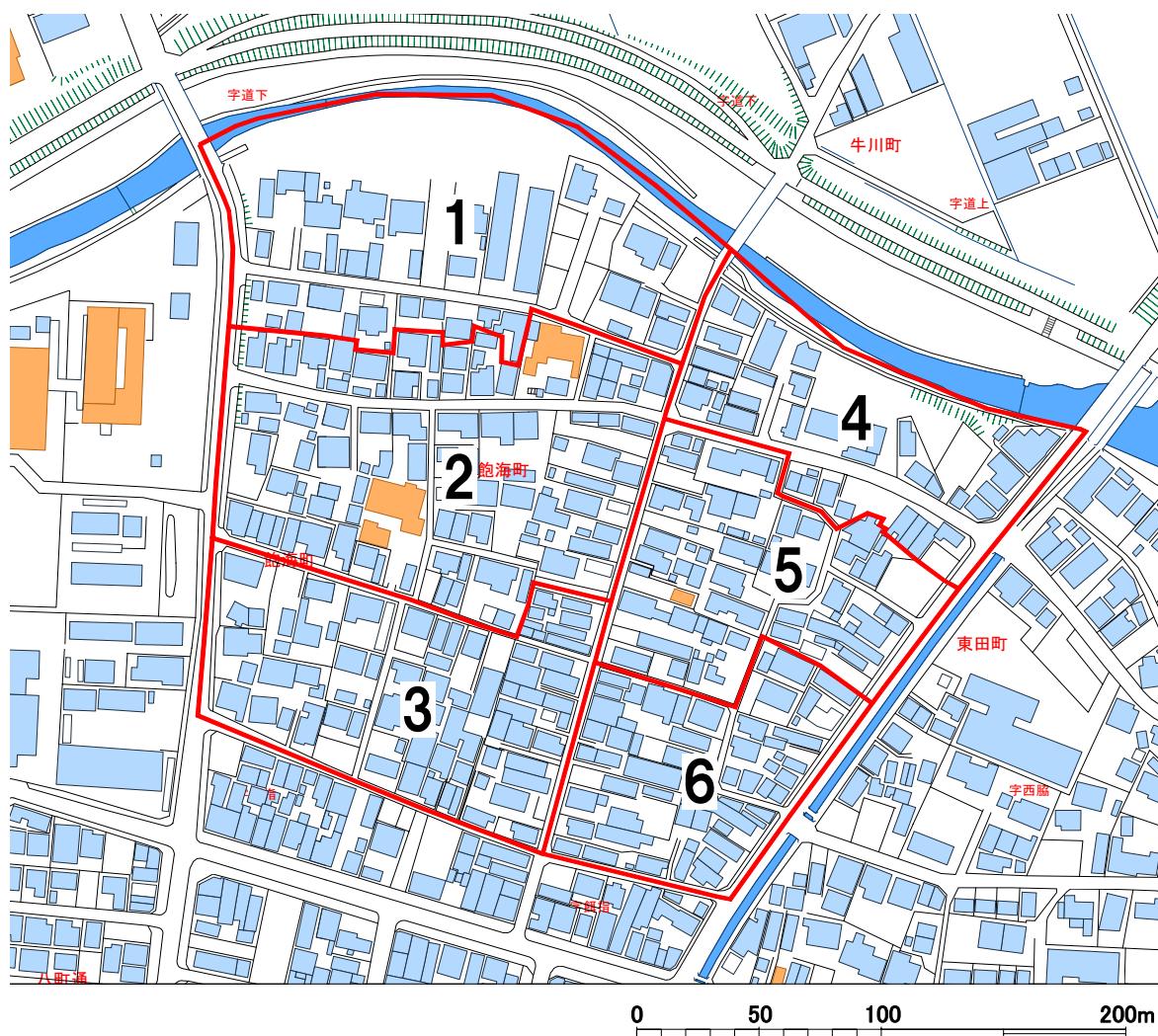


図1 防災訓練のグループ分け

●防災訓練の概要・流れ

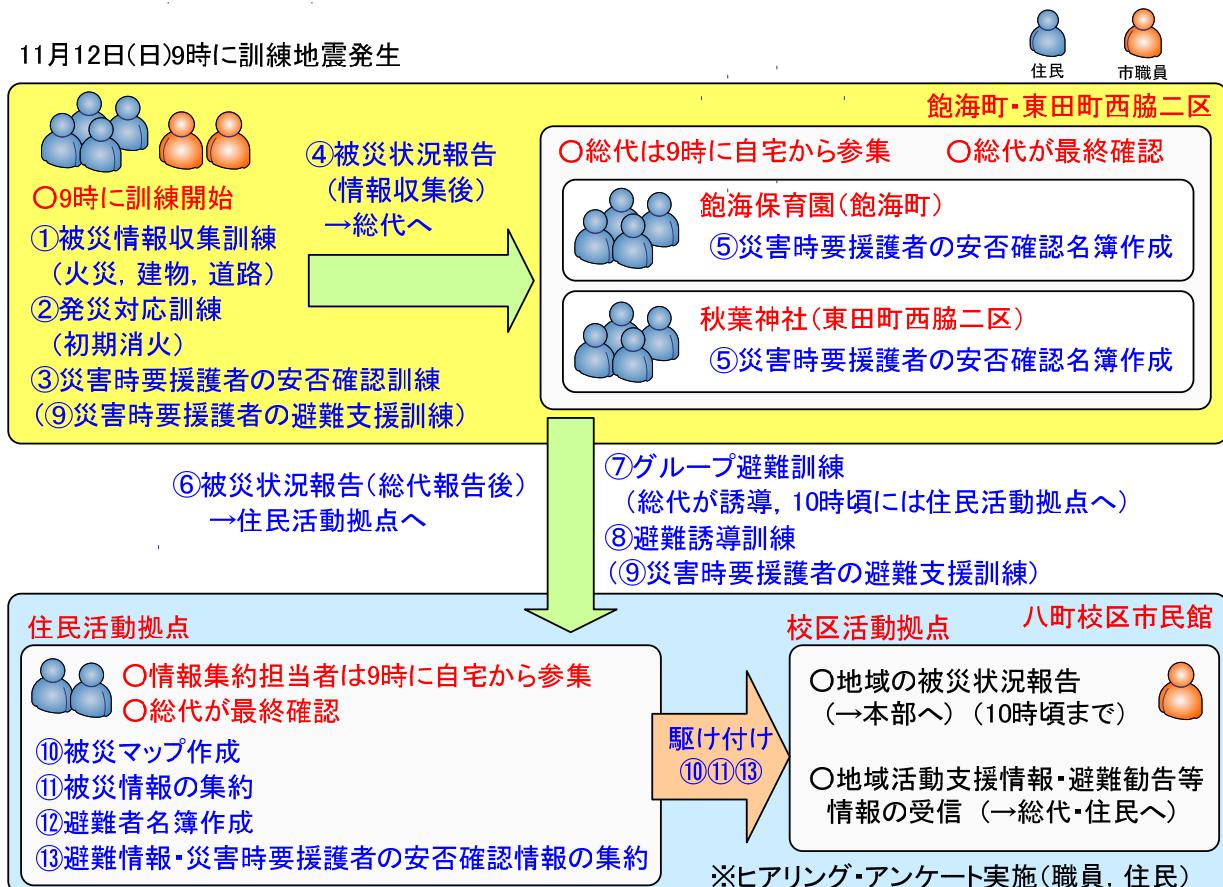


図2 防災訓練の内容と主な流れ

●各担当者氏名一覧

鮑海町

訓練本部長：三井総代

情報収集担当者：井本 (グループ1), 土屋 (グループ2), 中神 (グループ3)

情報集約担当者：山本

東田町西脇二区

訓練本部長：向坂総代

情報収集担当者：近藤 (グループ4), 安藤 (グループ5), 杉浦 (グループ6)

情報集約担当者：木村

●その他

- ① 訓練当日は、地域内で実施されている防災訓練の様子を取材カメラが撮影しているかもしれません、カメラを気にせず、普段通り訓練を実施してください。
- ② 鮑海町、東田町西脇二区内には都市計画課職員2名と工学院大学・豊橋技術科学大学スタッフ6~8名が9時前までに待機、地域内の防災訓練を支援
- ③ 八町校区市民館の校区活動拠点には防災対策課1名が待機、住民活動拠点からの情報収集、

栄小学校体育館に設置した仮災害対策本部事務局へ情報伝達等を実施

- ④ 八町校区市民館内の校区防災拠点（防災対策課職員が配備）の見学について
（住民の方は希望者のみで結構です）

- ・八町校区市民館に到着後、地域住民の方が主体となって収集集約し、八町校区市民館内に設置した校区活動拠点から仮豊橋市災害対策本部事務局（栄小学校体育館）へ報告された被害情報が事務局側でどのように活用され、またそれが災害時の地域住民の応急対応行動に有用な情報として校区活動拠点へどのように反映されていくのか、こうした ICT (Information and Communication Technology) を援用した訓練にご参加、ご見学頂きたい（10 時 40 分頃予定）。
- ・その結果を踏まえ、地域住民という立場からご評価頂きたい（11 時頃には終了予定）。当日は簡単なヒアリング・アンケート項目を準備する予定。

総代（三井、向坂）の動き・役割

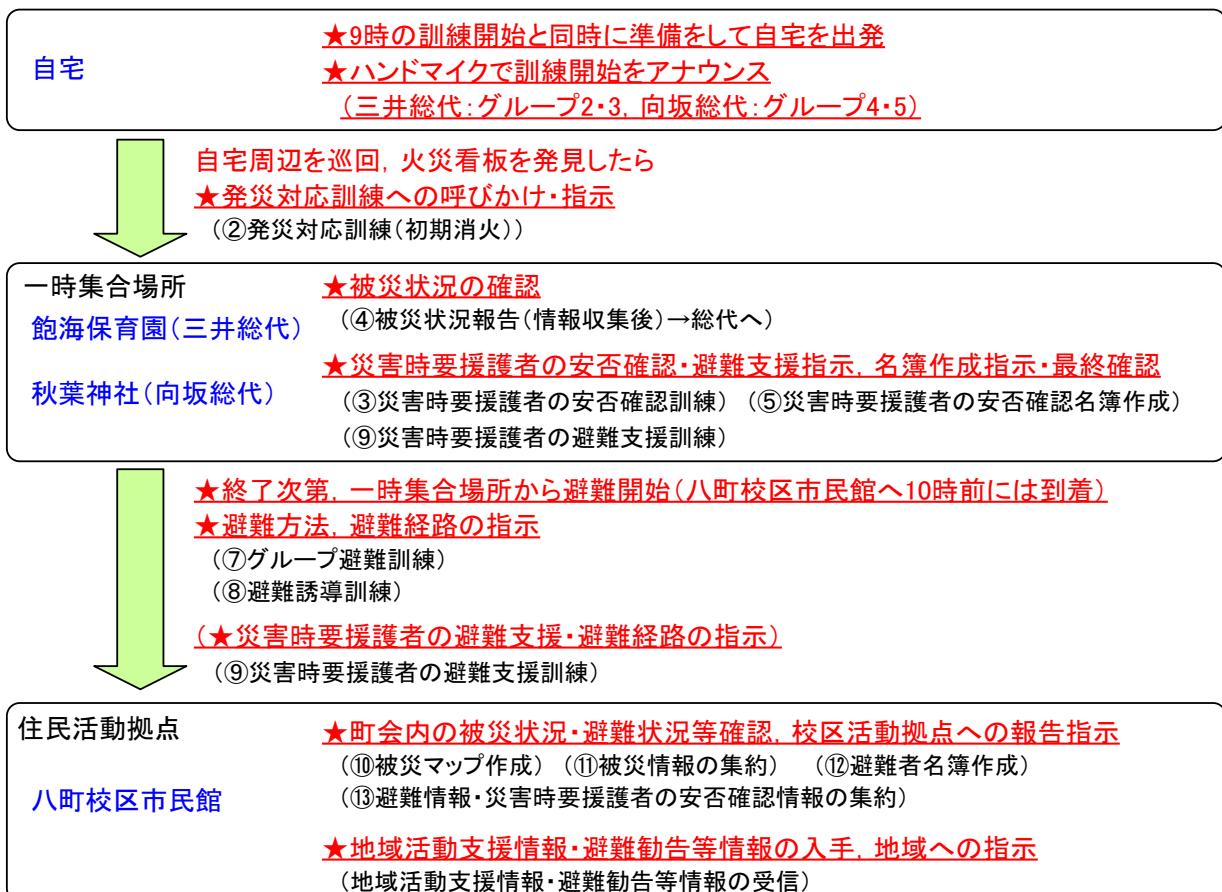


図3 総代の動きと役割の概要

その他

- ① 鮑海保育園または秋葉神社から八町校区市民館までの安全な避難経路を事前に確認
- ② 八町校区市民館の住民活動拠点へ到着後、まず情報収集担当者と情報集約担当者を集めて、被災マップと被災状況集約表の内容を確認し、情報収集担当者に校区活動拠点にいる防災対策課職員に渡すように指示（※情報入力担当者が情報入力端末から被災マップを基に被災情報を入力、さらに被災状況集約表をIP電話のFAXで仮災害対策本部事務局へ送信）。
- ③ 次に、避難者名簿と避難状況等集約表の内容を確認し、情報収集担当者に避難状況等集約表を校区活動拠点にいる防災対策課職員に渡すように指示（※情報入力担当者が情報入力端末から避難状況等集約表を基に避難者数を入力、さらに避難状況等集約表をIP電話のFAXで仮災害対策本部事務局へ送信）
- ④ 町会内での情報集約・確認が終了後、地域住民の方が主体となって収集集約し、校区活動拠点から（仮）豊橋市災害対策本部事務局（栄小学校体育館内に設置）へ報告された被害・避難情報が事務局側でどのように活用され、またそれが災害時の地域住民の応急対応行動に有用な情報として校区活動拠点へどのように反映されていくのか、こうしたICT（Information and Communication Technology）を援用した訓練にご参加、ご見学頂きたい（10時40分頃予定）。
- ⑤ その結果を踏まえ、総代という立場からご評価頂きたい（11時頃には終了予定）。当日は簡単なヒアリング・アンケート項目を準備する予定。

情報収集担当者（井本、土屋、中神、近藤、安藤、杉浦）の動き・役割

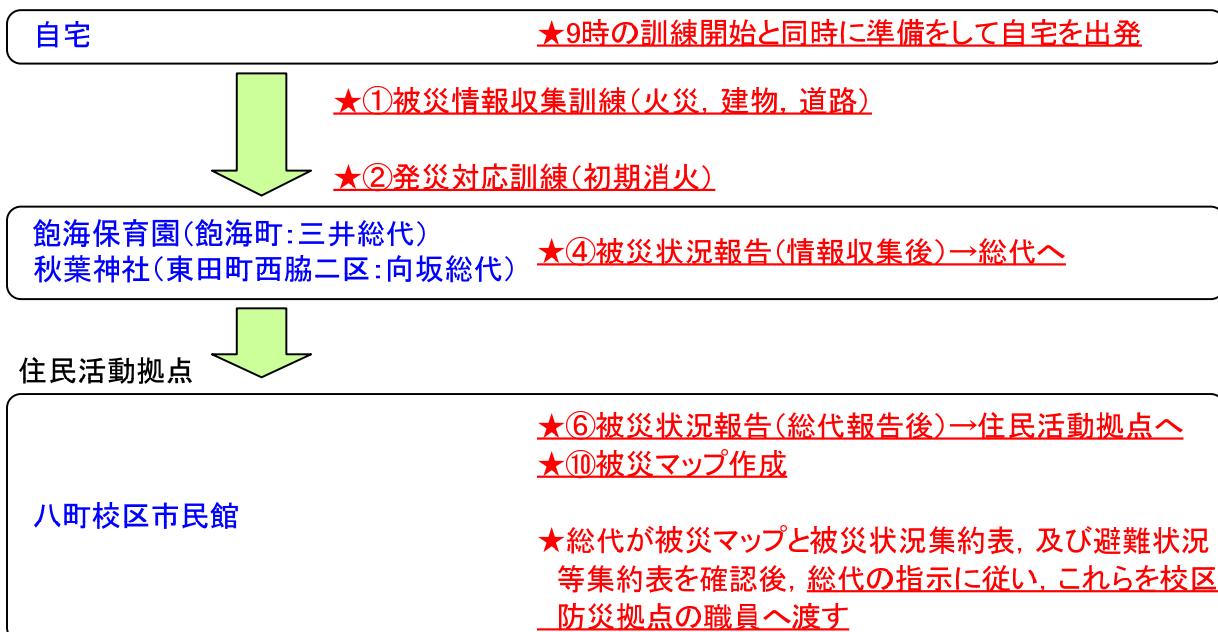


図4 情報収集担当者の動きと役割の概要

- ・被害情報は、火災被害、建物被害、道路被害、の3種類とし、看板を電柱に設置（図5～9）
- ・各グループ内の2～3箇所に被害情報を設置。そのうち、1カ所は火災被害。
- ・被害情報の記憶のしかたは、建物被害であれば「○○さんの家の前に建物被害があり、被害の程度は全壊（または半壊）」、火災被害であれば「○○さんの家の前に火災被害があり、初期消火活動により消火できた（または消火できなかった）」、道路被害であれば「○○さんの家の前の道路は通行できない」といった程度。

訓練詳細

- 1) 9時に自宅をでて、担当グループ内（図1参照）を20分程度巡回しながらメモ等はとらずに記憶のみで被害情報の収集を行う。なお、道路閉塞の看板がある道路は迂回。
- 2) 火災被害の看板前で発災対応訓練が実施されていれば、訓練に参加。火災被害の看板がある場所で訓練が実施されてなければ、周辺の住民へ訓練参加を呼びかけ、訓練に参加。発災対応訓練の結果（消火済、未消火）を確認。（発災対応訓練は15ページを参照）
- 3) 建物被害は、被害情報のある場所と、建物被害の程度（全壊、半壊）を記憶
- 4) 火災被害は、被害情報のある場所と、発災対応訓練の結果（消火済、未消火）を記憶
- 5) 道路被害は、被害情報のある道路を記憶
- 6) 鮑海町（グループ1～3）の情報収集担当者は、鮑海保育園にいる三井総代に被災状況報告をした後、八町校区市民館の住民活動拠点にいる情報集約担当者へ被災状況を報告し被災マップ作成にとりかかる
- 7) 東田町西脇二区（グループ4～6）の情報収集担当者は、秋葉神社にいる向坂総代に被災状況報告をした後、八町校区市民館の住民活動拠点にいる情報集約担当者へ被災状況を報告し被災マップ作成にとりかかる
- 8) 被災マップはA3サイズの地図（鮑海町、東田町西脇二区、別紙1）を使用し、記憶を

基に被害情報があった場所に被害の種別（火災被害、建物被害、道路被害）を地図上に記入（図10）。建物被害については被害の程度（全壊、半壊）もあわせて記入し、火災被害については発災対応訓練の結果（消火済、未消火）もあわせて記入（図10）。

- 8) 総代の指示に従い、まず被災マップと被災状況集約表、次に避難状況等集約表を校区防災拠点の職員へ渡す（可能な限り迅速に行う）。



図5 被害看板の設置の様子



図6 建物被害の看板（左：建物被害の程度が全壊、右：建物被害の程度が半壊）

文部科学省科学技術振興調整費 重点課題解決型研究プロジェクト

防災訓練

火災

消火器：本
バケツ：個

防災訓練

豊橋市
豊橋技術科学大学
工学院大学

消火済

未消火

図 7 火災被害の看板

図 8 発災対応訓練の結果
(上：消火済，下：未消火)

文部科学省科学技術振興調整費 重点課題解決型研究プロジェクト

防災訓練

道路閉塞

通り抜け出来ません

防災訓練

豊橋市
豊橋技術科学大学
工学院大学

図 9 道路被害の看板

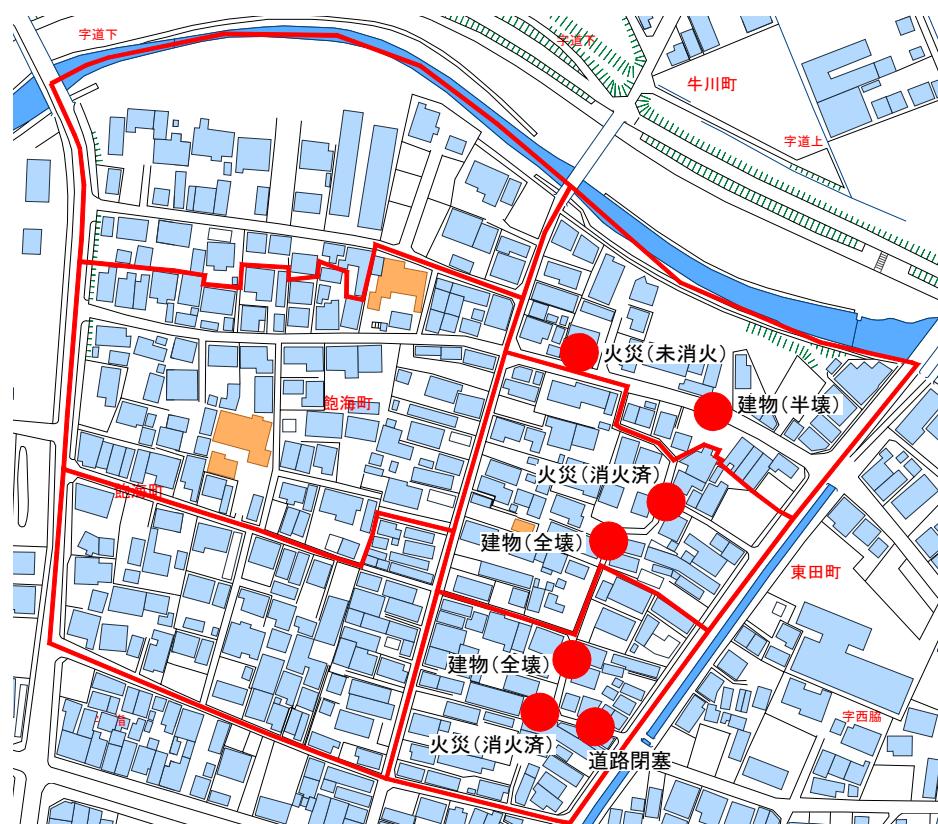
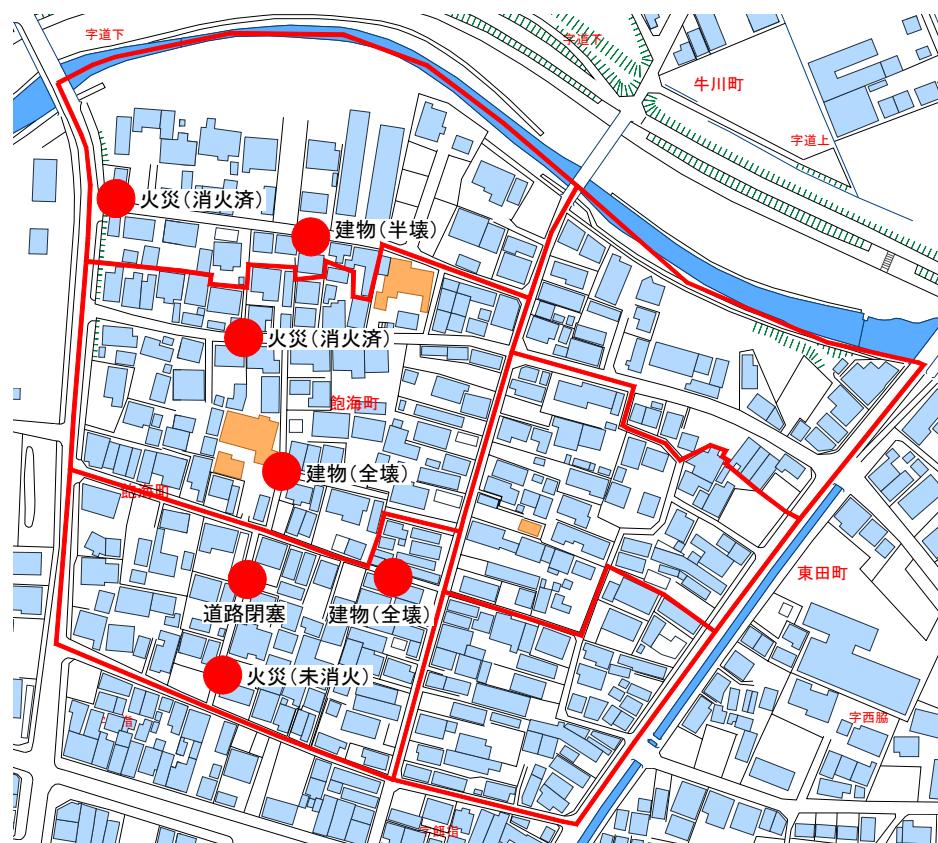


図 10 被災マップの作成例（マップのサイズはA3 サイズ）

情報集約担当者（山本、木村）の動き・役割

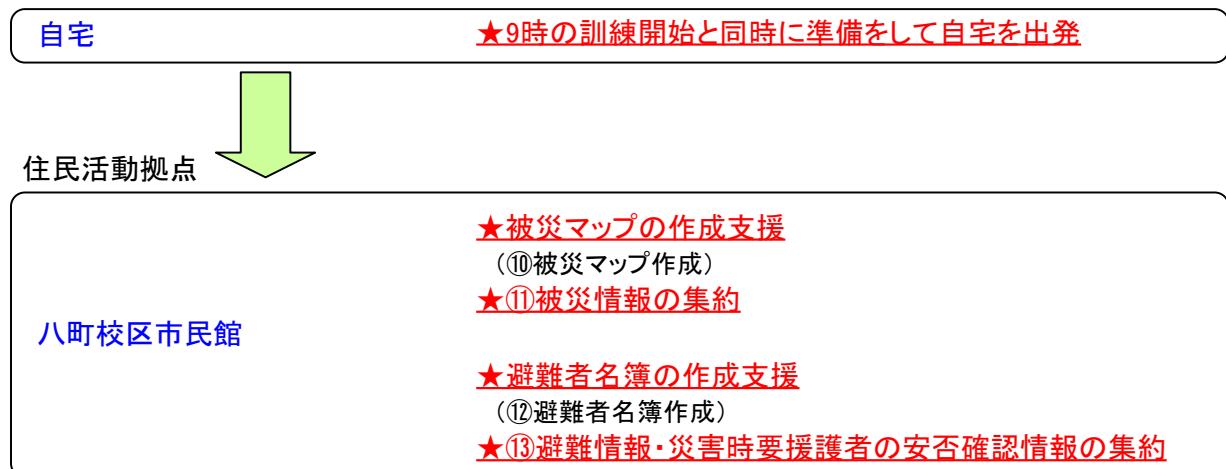


図 11 情報集約担当者の動きと役割の概要

訓練詳細

- 1) 情報収集担当者が到着後、被災状況の報告を受け、被災マップの作成を支援
- 2) 作成された被災マップ（図 10 参照）を基に、グループ単位および全体の被災情報を集約（表 1）
- 3) 総代が到着後、総代の指示に従い、情報収集担当者とともに被災マップと被災状況集約表の内容を確認。確認後は、情報収集担当者が校区活動拠点の防災対策課職員へ届ける。
※校区活動拠点内の情報入力担当者が情報入力端末から被災情報を入力、さらに被災状況集約表を IP 電話の FAX で仮災害対策本部事務局へ送信
- 4) 住民活動拠点へ避難してきた住民へ各グループに分かれて避難者名簿に「氏名」と「性別」を記入するように指示（表 2）
- 5) 次に、総代が住民活動拠点へ持ってきた災害時要援護者の安否確認名簿（表 3、飽海保育園、秋葉神社で作成されたもの）と、住民活動拠点で作成した避難者名簿を基に、町内の避難情報・災害時要援護者の安否確認情報を集約（表 4）
- 6) 総代が避難状況等集約表の内容を確認。確認後は、情報収集担当者が校区活動拠点の防災対策課職員へ届ける。
※校区活動拠点内の情報入力担当者が情報入力端末から避難者を入力、さらに避難状況等集約表を IP 電話の FAX で仮災害対策本部事務局へ送信

○○○○の被災状況集約表（表1）

記入者(情報集約担当者): _____
 記入日時: ____月____日____時____分
 確認者(総代): _____

グループ	建物被害		火災被害			道路被害		報告者(情報収集担当者)	
	被害 総数	被害の程度 全壊 半壊	被害		初期消火 済 未	被害 総数			
			総数	未					
○									
△									
□									
総計									

避難者名簿(グループ番号:____) (表 2)

No	氏 名 (ひらがな可)	性 別
1		男・女
2		男・女
3		男・女
4		男・女
5		男・女
6		男・女
7		男・女
8		男・女
9		男・女
10		男・女
11		男・女
12		男・女
13		男・女
14		男・女
15		男・女
16		男・女
17		男・女
18		男・女
19		男・女
20		男・女

計 男: _____ 名 女: _____ 名 (____月____日____時____分 現在)

災害時要援護者の安否確認名簿（表3）

No	グループ	氏名(ひらがな可)	性別	安否確認	避難状況(安否確認済)
1		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()
2		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()
3		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()
4		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()
5		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()
6		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()
7		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()
8		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()
9		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()
10		男・女	未・清	自宅・避難所()	その他()

計 安否確認済(避難状況:自宅) 男: _____ 名 女: _____ 名

安否確認済(避難状況:避難所) 男: _____ 名 女: _____ 名

安否確認済(避難状況:その他) 男: _____ 名 女: _____ 名

安否未確認 男: _____ 名 女: _____ 名 (_____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分 現在)

○○○○の避難状況等集約表（表4）

報告者(避難状況): _____

報告者(災害時要援護者): _____

記入者(情報集約担当者): _____

記入日時: ____ 月 ____ 日 ____ 時 ____ 分

確認者(総代): _____

避難状況			災害時要援護者の安否確認情報						
グループ	安否確認済(避難:避難所)			安否確認済(避難:自宅, その他)			安否未確認		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
○									
△									
□									
総計									

住民の方の防災訓練の流れ（総代・担当者以外）

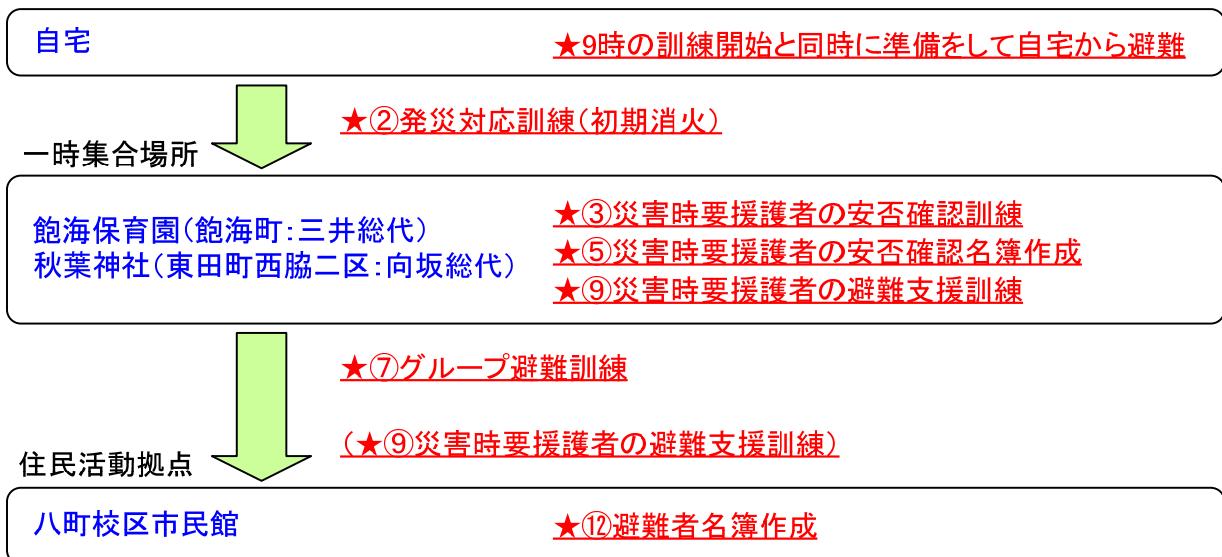


図 12 住民の方の防災訓練の流れ

訓練の流れ

- 1) 9 時の訓練開始のアナウンスと同時に準備をして自宅から避難開始
- 2) ご自分の属するグループ内 (図 1 参照) を巡回し, 火災被害の看板 (図 13) を探す (各グループに 1 力所設置)
- 3) 火災被害の看板を発見したら, 周辺の方に呼びかけ協力しながら初期消火を模擬した発災対応訓練を実施・参加 (最大 10 分)。飽海町ではバケツ・消火器に加え, 消防ホースも使って発災対応訓練を実施。訓練場所では総代や情報収集担当者 (飽海町 : 井本玲子・土屋茂・中神孝美, 東田町西脇二区 : 近藤雅洋・安藤吉雄・杉浦省三) などからの指示あり (※図 12②発災対応訓練 (初期消火))。
- 4) 発災対応訓練が終了したら, バケツと消火器は持ってきた人が各自返却(スタッフも支援)。また消防ホースも消火栓箱の中に格納する。
- 5) 返却後, 饱海町の方は飽海保育園, 東田町西脇二区の方は秋葉神社へ一時集合。
- 6) 饱海保育園または秋葉神社に到着したら, 総代の指示に従い, 饱海保育園または秋葉神社を拠点として災害時要援護者の安否確認・避難支援 (担架や乳母車などの利用) を行い, さらに安否確認名簿の作成を支援 (※図 12③災害時要援護者の安否確認訓練, ⑤災害時要援護者の安否確認名簿作成, ⑨災害時要援護者の避難支援訓練) (表 5)
- 7) 災害時要援護者の安否確認訓練および安否確認名簿作成が終了したら, 総代の指示 (避難方法や避難経路の指示) に従い, 饱海保育園または秋葉神社から八町校区市民館までグループ避難を行う (※図 12⑦グループ避難訓練)。
- 8) もし総代より災害時要援護者の避難支援の指示があった場合には, その指示に従って, さらに八町校区市民館まで災害時要援護者の避難を支援 (担架や乳母車などの利用) (※図 12⑨災害時要援護者の避難支援訓練)。
- 9) 八町校区市民館へ避難後, 住民活動拠点内に移動
- 10) 住民活動拠点内に設置した各グループのテーブルに行き, 避難者名簿に「氏名」と「性

別」を記入（表 6）

- 1 1) 記入後は、八町校区市民館内に設置されている校区防災拠点（防災対策課職員が配備）の見学（希望者のみ）、八町校区防災訓練へ参加

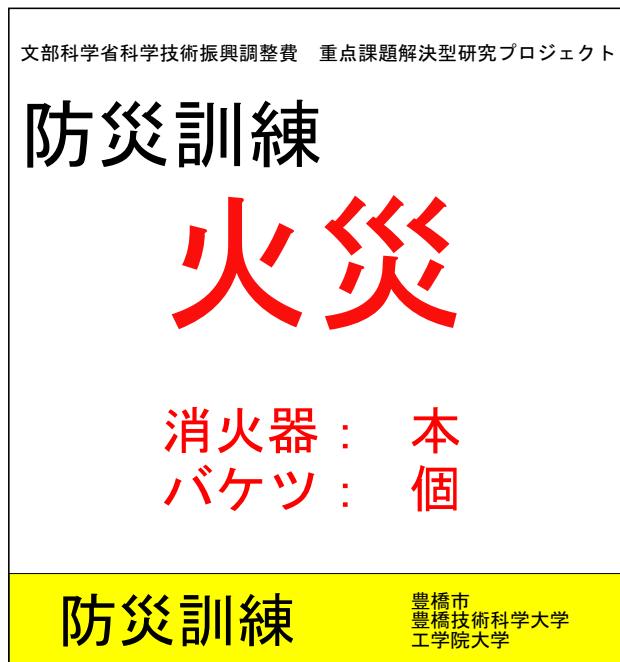


図 13 火災被害の看板

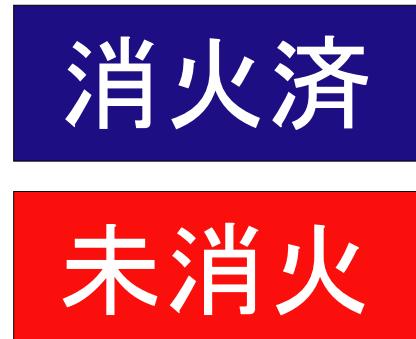


図 14 発災対応訓練の結果
(上：消火済, 下：未消火)

「②発災対応訓練（初期消火）」について

- ・火災被害の看板（図 13）がある場所で実施（各グループ 1 カ所）

飽海町：

★消火器とバケツを利用した初期消火模擬訓練（1 カ所、グループ 1）

★消火器とバケツ、および消防ホース（消火栓箱、20m×2 本）を利用した初期消火模擬訓練（2 カ所、グループ 2・3）

東田町西脇二区：

★消火器とバケツを利用した初期消火模擬訓練（3 カ所、グループ 4・5・6）

- ・看板発見から 10 分を目途に消火（スタッフが記録）

- ・訓練実施場所にはスタッフが 1 名待機（時間計測、記録）

訓練詳細

1) 火災被害の看板を最初に発見したら、周辺の方に呼びかけ協力しながら、看板に記載されている「消火に必要なバケツの数と消火器の数」を看板の前に集める（図 15 参考）。飽海町のグループ 2 とグループ 3 は、看板に記載されているバケツと消火器の収集に加え、街頭に設置されている消火栓箱からホースを取り出し、看板近くまでホースを延ばして筒先を看板に向ける（図 16 参考）。

2) バケツは、現場周辺の方から借りるか、又は簡易貯水槽に設置しているものを利用し、

バケツの中には水を入れて持ってくる。東田町西脇二区は簡易貯水槽の水も利用可。消火器は、街頭に設置されているものを集めてくる。

- 3) 10分以内に上記が完了すれば、「消火済」のステッカーが貼られ、初期消火は成功。10分が経過しても上記が完了していないければ、「未消火」のステッカーが貼られ、初期消火は失敗（図14）。時間はスタッフが計測。
- 4) 訓練終了後、バケツと消火器は持ってきた人が各自返却（スタッフも支援）し、また消防ホースも消火栓箱の中に格納する。
- 5) 返却後、飽海町の方は飽海保育園、東田町西脇二区の方は秋葉神社に一時集合し、総代の指示に従って災害時要援護者の安否確認訓練および安否確認名簿作成を実施



図15 発災対応訓練の例（消火器とバケツを使用した例）



図16 発災対応訓練の例（消防ホースを使用した例）

「③災害時要援護者の安否確認訓練」「⑤災害時要援護者の安否確認名簿作成」

「⑨災害時要援護者の避難支援訓練」について

飽海町：

- 1) 発災対応訓練の終了後、総代の指示のもと、飽海保育園を拠点として、各グループ 1世帯の安否確認、1世帯の避難支援（乳母車）を行い、要援護者の安否確認名簿の作成支

援（表5）

- 2) 総代が最終確認
- 3) もし総代より八町校区市民館までの要援護者の避難支援の指示があった場合には、その指示に従って、さらに八町校区市民館まで避難を支援（担架や乳母車などの利用）。

東田町西脇二区：

- 1) 発災対応訓練の終了後、総代の指示のもと、秋葉神社を拠点として、グループ4が3名、グループ5が1名、グループ6が3名の安否確認、また各グループ1名の避難支援（担架）を行い、要援護者の安否確認名簿の作成支援（表5）
- 2) 総代が最終確認
- 3) もし総代より八町校区市民館までの要援護者の避難支援の指示があった場合には、その指示に従って、さらに八町校区市民館まで避難を支援（担架や乳母車などの利用）。

「⑦グループ避難訓練」について

飽海町：

- 1) 要援護者の安否確認・避難支援および名簿作成後、総代の指示（避難方法や避難経路の指示）に従い、飽海保育園から八町校区市民館までグループ避難
※10時前には八町校区市民館に到着予定

東田町西脇二区：

- 1) 要援護者の安否確認・避難支援および名簿作成後、総代の指示（避難方法や避難経路の指示）に従い、秋葉神社から八町校区市民館までグループ避難
※10時前には八町校区市民館に到着予定

「⑪避難者名簿作成」について

- 1) 八町校区市民館へ避難後、住民活動拠点内に移動
- 2) 住民活動拠点内に設置した各グループのテーブルに行き、情報集約担当者（飽海町：山本幸司、東田町西脇二区：木村清見）の指示に従って、避難者名簿に「氏名」と「性別」を記入（表6）
- 3) 記入後は、八町校区市民館内の校区防災拠点の見学（希望者のみ）、八町校区防災訓練へ参加

その他

- ① 訓練当日は、NHKの取材カメラが地域内で実施されている防災訓練の様子を撮影しておりますが、カメラを気にせず、普段通り訓練を実施してください。
- ② 地域内には幾つかの被害状況を想定した看板を設置しておりますが（図17）、実際の被害とは無関係ですので、ご理解のほど、宜しくお願ひいたします。
- ③ 地震時には建物やブロック塀の倒壊により通行できなくなる道路が地域内の至るところで発生することが予想されます。道路閉塞の看板がある道路はこうした状況を模擬的に想定したものですので、道路閉塞の看板がある道路は迂回してください

- ④ 八町校区市民館内の校区防災拠点（防災対策課職員が配備）の見学について（希望者のみ）
- ・八町校区市民館に到着後、地域住民の方が主体となって収集集約し、八町校区市民館内に設置した校区活動拠点から仮豊橋市災害対策本部事務局（栄小学校体育館）へ報告された被害情報が事務局側でどのように活用され、またそれが災害時の地域住民の応急対応行動に有用な情報として校区活動拠点へどのように反映されていくのか、こうした ICT (Information and Communication Technology) を援用した訓練にご参加、ご見学頂きたい（10時40分頃予定）。
 - ・その結果を踏まえ、地域住民という立場からご評価頂きたい（11時頃には終了予定）。当日は簡単なヒアリング・アンケート項目を準備する予定。

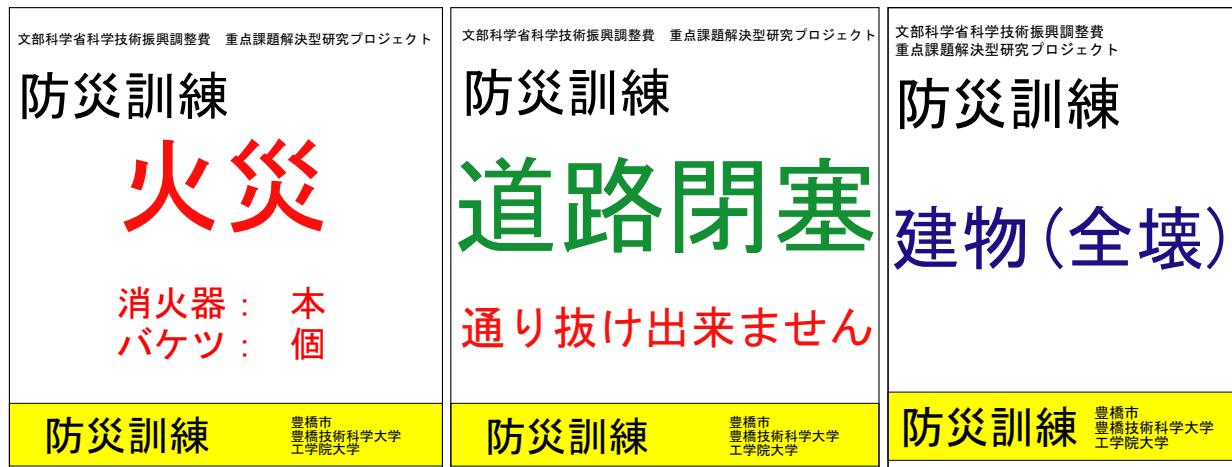


図 17 被害看板（左：火災被害、中央：道路閉塞、右：建物（全壊））

災害時要援護者の安否確認名簿（表5）

No	ケループ	氏名(ひらがな可)	性別	安否確認	避難状況(安否確認済)
1			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()
2			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()
3			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()
4			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()
5			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()
6			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()
7			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()
8			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()
9			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()
10			男・女	未・清	自宅・避難所()・その他()

計 安否確認済(避難状況:自宅) 男: 名 女: 名

安否確認済(避難状況:避難所) 男: 名 女: 名

安否確認済(避難状況:その他) 男: 名 女: 名

安否未確認 男: 名 女: 名 (月 日 時 分 現在)

避難者名簿(グループ番号:____) (表 6)

No	氏 名 (ひらがな可)	性 別
1		男・女
2		男・女
3		男・女
4		男・女
5		男・女
6		男・女
7		男・女
8		男・女
9		男・女
10		男・女
11		男・女
12		男・女
13		男・女
14		男・女
15		男・女
16		男・女
17		男・女
18		男・女
19		男・女
20		男・女

計 男: _____ 名 女: _____ 名 (____月____日____時____分 現在)